



本校は、2009年に西日本第1号の国際バカロレア（IB）DP認定を受けた一条校で、生徒はグローバル社会のリーダーを目指し、学内外で様々な活動に取り組みます。

## AICJ高校女子サッカー部★4年連続冬の選手権出場決定！

冬の選手権広島県予選会では、皆様のご支援をいただき、2連覇を達成することができました。11月7日に行われた中国地域大会決勝でも、準優勝し、4年連続で選手権全国大会出場を決めました。この夏のインターハイ全国ベスト8、昨年の選手権全国ベスト8を上回ることを目標とします。今年の全国大会は、例年より少し早く12月30日より兵庫県各所にて行われる予定です。「日本一へのストーリー」は、着実に紡がれています。来年の1月8日に神戸のノエビアスタジアムの決勝ピッチに立てることを願っています。



広島県予選会で  
1点目を決めた後



広島県予選会で優勝後の応援ギャラリーへのあいさつ



中国地域予選会の試合前



## 第4回中学生英語スピーチコンテストで敢闘賞を受賞

第4回（株）ボーダーリンク主催中学生スピーチコンテストにおいて、本校中1の小串奏乃さんが、全国500名を超える応募者の中から優秀者10名に選ばれ、敢闘賞を受賞しました。今回のテーマは「海外の人に紹介したい、私の推し」でした。彼女の「推し」たものは、「Pokemon cards」でした。



### 《小串奏乃さんのコメント》

人前で話すのが苦手だった私には、大きなチャレンジでした。どうすれば相手に正確に伝えられるか工夫することで、スムーズに話すことができました。自分に自信を持つことができるよい経験となりました。

## AICJ School Festival 学園祭開催★スローガンは“VIVID”

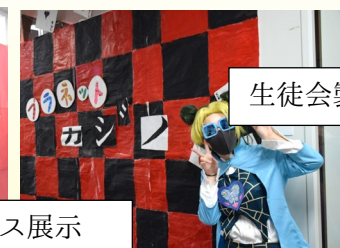
今年の学園祭は、一般非公開とはなりましたが、生徒会企画によるステージパフォーマンス、中学生によるクラス展示、高校生による食販、各種文化部による発表など大いににぎわいました。



野外特設ステージ



中学生による趣向をこらしたクラス展示



生徒会製作のパーカー



Mars11  
かっぱのきゅうかんBar



Mercury11  
団子28兄弟



Venus11  
わっしょい  
チョコバナナ丸



IB11  
Tartelette Factory





# 広島菜漬★「みのりみのるプロジェクト」 キッシュ開発販売

本校高2の苅屋田夏光さん・城彩音さんと農畜産物直売所「とれたて元気市広島店」が地元特産の広島菜漬入りのキッシュを共同開発し、10月8日から同店で販売を始めました。初日は、限定16個を約1時間で完売しました。購入していただいた方のアンケートからは、広島菜漬は知っているが、安佐南区の「川内地域」が生産量1位だとは知らない人が多いことが分かりました。二人は、この体験を経て、商品開発の難しさを思い知ったようです。また、若い人にも広島菜漬の美味しさを知ってもらいたいと思ったそうです。



全農の方と、商品についての打ち合わせを数回重ねました



「とれたて元気市」で販売中の二人



これが、3つの試作品から最終的に完成した商品です

元々およそ1年前、地域活性化のために何が出来るかを考えていたところ、地域に密着した企業である「全農」を知りました。そして、ご理解とご協力を得て、ミーティングを重ね商品を開発し、学校と同じ安佐南区にある「とれたて元気市」で広島菜入りのキッシュを販売するに至りました。



中国新聞でも紹介して頂きました

## 国連ユニタール広島青少年大使に本校の2名が選出されました



私達にできるSDGsを具体的に挙げていきました。

このプログラムに、本校の生徒は毎年参加しています。今年は、県内から60名余りの中高生が青少年大使として選出されました。3日間に渡るプログラムでは、SDGsについて深く学んだりグレース国連事務総長のお話を聞いたりする機会も持つことができました。海外の若者とも意見交換する中で、新たな考え方や価値観を知ることができたようです。



中3の陳柄臻君（右）とウォーカー愛ミシェルさん

### 「国連訓練調査研究所（ユニタール） 広島事務所とは」



ユニタール広島事務所は、ジュネーブ、ニューヨークに次ぐ3番目の事業拠点として2003年に誕生しました。原爆の被害を乗り越え、平和都市として復興を遂げた広島の実験と教訓を背景に、紛争後の復興や平和構築、軍縮、持続可能な開発目標（SDGs）に重点を置き、開発途上国の人々などを対象とした研修事業を展開しています。広島という象徴的な地に設立された最初の国連機関であり、中四国地方で唯一の国連機関でもあります。

## 5年前の先輩の活動を継承★防災絵本翻訳プロジェクト

2014年8月20日、尊い人命が多く失われた広島豪雨災害で本校も一部校舎が浸水しました。「私たちにも何かできることはないのか」それが防災絵本制作のきっかけとなりました。2017年に完成したこの絵本を、現在本校の数名の生徒たちが英語翻訳するというプロジェクトを行っています。「どうやってメッセージが伝わるだろうか」と知恵を出し合いながら翻訳に取り組んでいます。



これは、2017年秋発行のAICJ Newsletterの記事です。

### 広島土砂災害の記憶を継承していくための活動



3年前の広島土砂災害について、日本応用地質学会のご協力のもと、本校の数名の生徒が調査を進める中で実はこの地方での土砂災害は今回が初めてではなかったことがわかりました。それは古文書からも読み取れました。さらに、地域における災害発生の危険性に理解を深め、次世代へ継承していくためにはどうすればよいかと考えたところ、この度の絵本作成とその読み聞かせという活動へとつながりました。NHKの防災ラジオ番組でもインタビューを受けました。



幼稚園での読み聞かせの様子



八木蛇王池 大蛇霊の慰霊碑



右の写真は、先輩方が当時作成した読み聞かせのための防災絵本です。当時は、それを用いて幼稚園で読み聞かせをしました。

日本応用地質学会の講師の方をお招きして防災について学びました。

